

黄肉で食味の優れたモモ新品種「つきあかり」

モモの果肉の色には白色と黄色があります。現在、日本で栽培されている生食用品種はほとんどが白肉品種で、黄肉品種は缶詰用の印象が強いため極くわずかし栽培されていません。しかし、最近では消費者ニーズの多様化により、晩生の黄肉品種「黄金桃」が生食用として市場に流通するようになるなど、黄肉品種への需要が高まりつつあります。そこで、(独)農研機構果樹研究所では、食味が優れた中生の黄肉品種「つきあかり」を育成したので、その概略を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 1991年に農林水産省果樹試験場(現 農研機構果樹研究所)において「まさひめ」に「あかつき」を交雑して得られた実生から選抜しました。果皮が美しい黄色であることから「つきあかり」と命名されました。
2. 果実重は220g程度で果形は扁円形です。果皮は黄色で陽光面がわずかに赤く色付きます。裂果の発生は少なく、無袋栽培でも美しい外観の果実が得られます(写真)。
3. 果肉も黄色です。モモの果肉には、熟したとき著しく軟化する「溶質」と、軟化が少ない「不溶質(ゴム質)」の二つのタイプがありますが、「つきあかり」は「溶質」で、肉質は「やや密」です。果汁糖度は平均で14%程度になり、中生の主要品種「あかつき」より約1%程高くなります。酸味は少なく、黄肉モモ特有の香りがあり、食味は安定して優れています。
4. 樹勢は強く、樹姿は開張と直立の中間となります。枝の発生は多く、花芽の着生も良好です。花は単弁普通咲きで花粉を有し、結実は良好です。開花期は育成地(つくば市)で4月上旬となり、「あかつき」とほぼ同時期かやや遅くなります。果実の収穫期は、育成地で7月下旬から8月上旬となり、「あかつき」より1週間後になります。



写真 「つきあかり」の果実(無袋栽培)

☆ 活用面での留意点

東北から九州までのモモ栽培地域で栽培が可能です。花芽が多く結実も良好なので、摘蕾・摘果を適切に行います。果肉のミツ症の発生を防ぐため適期収穫に努めます。苗木の市販は2009年秋以降になります。その他、詳細については(独)農研機構果樹研究所ナシ・クリ・核果類研究チーム(電話:029-838-6466)にお問合せ下さい。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 後藤 明彦)